

ふるさと農園

六月二十一日、わたしたちの「ふるさと農園（自然有機農園）」から、写真の、ジャンボニンニク、を収穫しました。

ゴルフボールは直径（規格・42・67mm）で、その2倍以上ありました。重さ6百g以上で、大きなのが7片あり、1つ65gでした。

あと、見たこともない、種のようなものが、周りに、5個もついていました。



これは、EM菌（有用微生物）の群の効果がだと思っす。A・T

三つ子！ 七つ子！

毎年6月に収穫する玉葱が年末近くに新芽が出て、急いで食べるか、そのままほっておくと葉が成長して中身がなくなります。それで新芽が出た時、畑に植えておきます。すると不思議なこと



に大抵複数の葉が出て、同数の実が つきます。根は一つですが、三つ子、四つ子、今年なんと七つ子誕生！さすがに小粒ですが丸のままシチューやカレーに使います。

K・N

会員だより

新緑の渉成園を訪ねて

東本願寺の別邸、渉成園（しようせいえん）を訪れました。別名、枳殻邸（きこくてい）のほうが有名ですが、渉成園とは、陶淵明の「帰去来辞」の一説、「園日涉而以成趣」（園、日に涉って以って趣をなす）から採って名づけられたということです。京都七条の東本願寺の東、烏丸通を隔てて約300メートルのところにあります。東本願寺は今、阿弥陀堂の修復中ですが、修復なった御影堂に参詣しその後、渉成園へ向かいました。受付を通り園

内に入ると、そこはもう緑で一杯です。まず正面に石垣が見えます。高石垣といつて、石橋のような長い切石や、礎石、白石、山石や瓦など多様な素材を組み合わせて築かれています。左手から回るのが順路になっています。緑の木立の中に「園林堂」、「蘆庵」、「代笠席」などなど多くの茶室や持仏堂、書院などが建てられています。園の東南には印月池という大きな池があり、池泉回遊式庭園で、東山から上る月影を水面に映して美しいことからこの名が付けられたという事です。池の周囲には縮遠亭、漱枕居などの茶室があり、回棹廊、渡雪端という優雅な橋が渡されています。また岸边には、花菖蒲、あやめ、睡蓮などが美しい彩を添えています。ことに睡蓮は見事な花をつけていました。池の北東岸に入り込んだ入り江の奥にある築山の石組みの下部に注水口が穿たれており、さわやかに水が落ち、小さな滝となっています。印月池の水源の一つとな

の水が引かれていたという事です。「獅子吼」といわれ、通常みられるような灌の石組みではなく、山腹から湧き出す泉のよいうな形式に造られている点が、渉成園のなかでも珍しい景物となっているそうです。



東本願寺は徳川家康から寺地を寄進され、その

後三代將軍家光から東本願寺の東側の土地を寄進されました。十三代門主、宣如上人がここを隠居所として造営し、周囲に枳殻（からたち）を生垣として植えたことから枳殻邸とも称されるようになったそうです。また十二代教如上人と千利休との親交にはじまって茶の湯とのかかわりも深く、園内には多くの茶室などが残っています。また四季折々の花が見られ、渉成園十三花として鑑賞されています。今回は、黄菖

蒲、睡蓮が特に綺麗でした。園内の建物はたびたびの火災で焼失しすべて明治以後に再興されたものですが、作庭などは当初の状態を伝えており、極めて貴重な庭園遺構文化財となっています。時期的に花はそんなに多くありませんでしたが、何百種あるとも知れない木々の新緑が美しく疲れた心を癒してくれました。



院を建立しようとしたが、何度も妖気がふりかかり工事が困難に成った。そこで鬼門に当たる「立里荒神」に一ヶ月お参りして祈願するとその後何事もなく高野山を建立できました。

（詳しくは観輪HPで）